



真鶴中学校だより 第二六六号 鶴からの手紙

2024
7.19
責任者
市川 麻美

今年も暑い夏を 乗り切ろう

「入り」が遅かった上に、雨の降る日が少なく終えた今年の梅雨...。熱中症警戒アラートが立て続けに発令され、予定していた内容を変更せざるを得ないこともありましたが、なんとか無事に一学期が終わるところです。

六月二十六日、小田原・足柄下地区中学校総合体育大会は、放課後のオンラインでの開始式後、二十九日に各会場でスタートしました。三年生にとっては最後となる『夏』。

バスケットボール部は、城南中と対戦。三年生と入ったばかりの一年生で、大きな得点差にもめげずに、最後まで精一杯プレイしました。得点を決められたときは嬉しかったですね。

サッカー部も、城南戦、前半0対3まで差をつけられてしまいました。後半怒濤の追い上げ、2対3、あと1点というところまでいきましたが、惜しくも届かず...。でも、本当に最後まで諦めずに精一杯ボールを追

い続けていた姿にとっても感動しました。

バレーボール部は、一試合目、白鷗中にストリートで敗戦も、県西大会出場をかけて、翌週末泉中と対戦、ストリートで勝ちました。しかし午後、酒匂中に惜敗し県西大会出場とはなりません。それでも、全国大会経験者が複数いるチームに引けを取らない戦いぶりでした。最後まで三年生を中心にチーム一丸となってやりきったのですから、胸を張ってください。

梅雨明け前でも、蝉の鳴き声が聞こえています。ここで有名な一句、『閑かさや岩にしみ入る蝉の声』...。松尾芭蕉の「奥の細道」に収められています。静かな山寺に蝉の声が響き渡る情景が浮かびます。蝉は夏に鳴くというイメージが強いですが、種類によって時期は異なるそうです。カナカナと鳴くヒグラシは秋の季語になるそうです。蝉の鳴き声で、真夏から秋へと少しずつ移っていくのを感じながら、夏を乗り切ってください。

「中学校生活最後の 大会に臨んで」

〈サッカー〉

今回三年生最後の大会、惜しくも負けてしまいました。悔いのない試合だったので良かったです。

僕は、すごく褒めた人が二人います。みんな褒めたいですが、点を取った二人を褒めます。

一人目は悠喜くんです。悠喜くんは、相手に流れを持って行かれていたときに、スーパーゴールを決め、流れを変えてくれました。

二人目は、琥雅くんです。初出場の琥雅くんは、出て早々点を決めた英雄です。

次は、今の二年生が三年生となり、大会優勝してくれることを信じています。

みんな大会お疲れ様でした。
三年一組 青木 律



〈バスケットボール〉

私はそれほど運動が得意なわけでもなく、むしろ苦手といった中、私は部長として最後の大会を胸を張って終えることができました。

実は私は一年生の最初からバスケット部に所属していた訳ではなく、途中から転部をしたため、おおよそ一年ほどの遅れがあつてのスタートでした。その遅れは

私にとっては相当大きなものであつて、先輩の背中を追うのに必死になっていました。やがて私は二年生となり、先輩方は引退してほぼ一人での活動がほとんどでした。後輩もいない中、顧問の先生と二人でできる練習もとても少なかったですが、それでもめげずにできることを精一杯してきた結果、三年生になって六人もの後輩たちに入部してもらえることができ、すごく嬉しかったのを今でも鮮明に覚えています。

大会では初戦負けという少し残念な結果になってしまいました。これから後輩の六人たちはもっとうと



成長して上手くなるでしょうし、他校との合同チームとしてではなく、真鶴中学校バスケットボール部として大会に出られたことが何よりも喜びです。

今回は私たちバスケットボール部への変温かい応援をありがとうございました。

三年一組 中込 こゆき

〈バレーボール〉

この大会は私たちにあって最後の大会でした。三年生の夏の大会は、やり直したくてもやり直すことができません。そんな中おかけた初戦白鷗中。緊張しながらも全員が声を出し団結していました。けど結果はストリートで負けてしまいました。来週勝たないと私たちは引退。この一週間では白鷗戦で出た課題を直すことを意識し、いつも以上に丁寧に練習に取り組みました。そしておかけた泉中との対戦。多少のミスはあったけど、自分たちのペースを崩さずストレー



が、終盤相手に流れをもっていかれストリートで負けてしまいました。県大会に行けなくて悔しいって気持ちも強かったけどそれ以上にこのチームで良かったと思える試合でした。

三年一組 朝倉 彩月

真鶴町「教育講演会」

六月二十五日、真鶴町教育月間事業の教育講演会が実施されました。テーマは「ハンセン病を知り、差別や偏見をなくそう」です。

国立ハンセン

病資料館学芸員の牛嶋 渉氏を講師に、過去、ハンセン病に対する誤った理解から、患者が一般社会から隔離された過去を知



トで勝つことができました。二戦目は酒匂中、勝ったから県西ブロック大会、負けたら引退。たくさんした後輩、保護者、先生が応援してくれました。命の尊厳について考えました。また、全ての人がともに安心して暮らしていくために、病気や障害、人種、性別などで差別されることのない社会の実現に向けて学ぶ機会となりました。〈生徒の振り返りから〉

差別や偏見をなくすためには良いのか、あまり分からないですが、自分にできることは、差別や偏見を理解し、意識して生きていくことなのかなと思いました。

〈一年生〉

差別だと思わなくても、無意識にそうなることがあるから、一つ一つの言葉を考えてから話す。

〈二年生〉

人権は一人ひとりにあり、相手はどう思うかを自分なりに考え、周りとは比べないでその人自身を見ようと思いました。

〈三年生〉

**クリーン作戦
ありがとうございました**

七月五日の午後、三年生の生徒と、PTA環境ボランティアや保護者の方で、クリーン作戦が実施されました。予定では昇降口の側溝に溜まった土砂をすくい出して片付ける作業でしたが、大変な暑さのため、校舎内での作業に変更となりました。主に三年生が使用している三階を中心に、床の汚れを落としたり、生徒会室、図書室など、普段はなかなか掃除できない場所をきれいにすることができました。



社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行のない社会を目指し、保護司の方や地域のボランティアの方等が中心となって、取り組んでいる活動です。本日、取り組みの啓発活動の一環として、生徒へビスケット等の配付がありました。自宅に持ち帰りますので、ご家庭でも話題にしてくださいと思います。



学校だより「鶴からの手紙」は真鶴中学校のホームページにも掲載されています。カラーでご覧いただけます。(最新号の掲載時期は少し遅れます。)

